

経済・金融 フラッシュ

4月マネー統計

～震災後の資金需要で銀行貸出の減少幅が大きく縮小

経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志

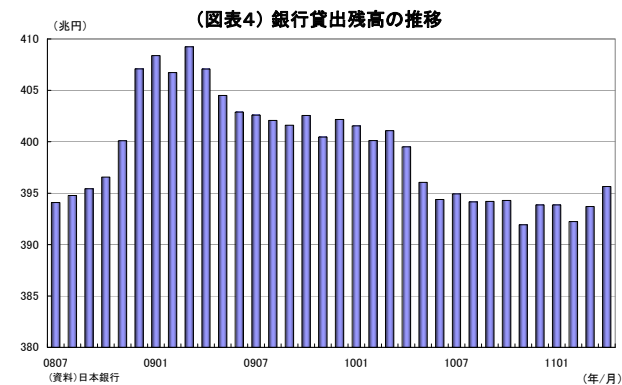
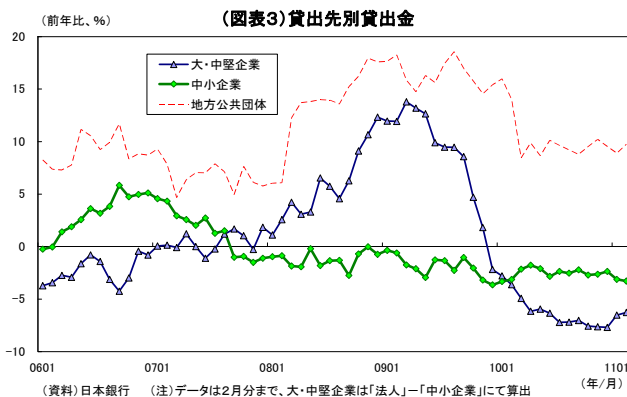
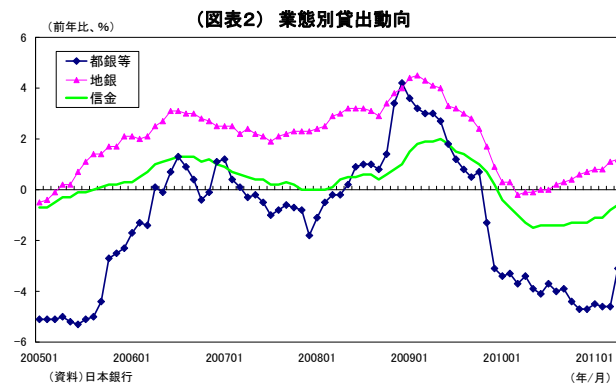
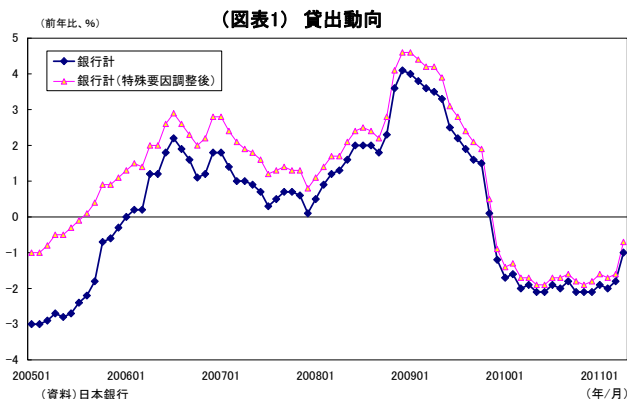
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

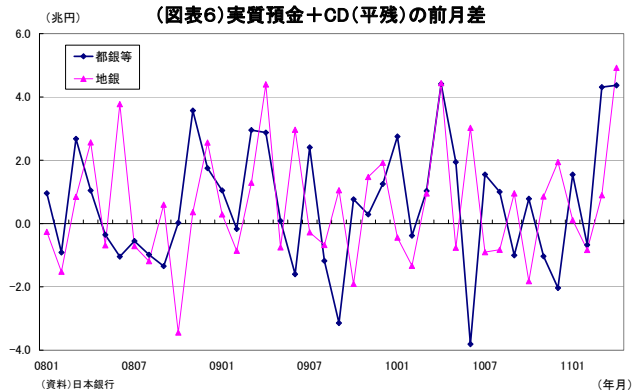
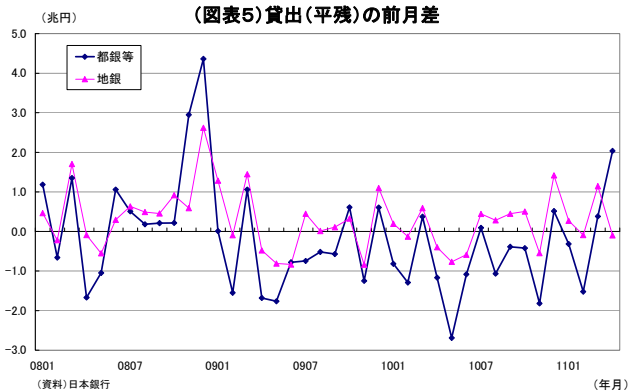
1. 貸出動向： 銀行貸出残高は対前年▲1.0%

日銀が発表した貸出・資金吸収動向等によると、4月の銀行総貸出（平残）の前年比伸び率は▲1.0%と前月の同▲1.8%からマイナス幅が大きく縮小した。17ヶ月連続の前年割れながら、減少幅は2009年11月（0.1%増）以来の小幅に。震災後の緊急融資や一部企業の運転資金確保の動きが反映された。

内訳では、都銀等が前年比▲3.1%減（前月は▲4.6%）、地銀が同1.2%増（前月は同1.1%増）と、特に都銀等のマイナス幅縮小の影響が大きい（図表1～4）。

季節要因を考慮せず貸出平残の前月差を見ると（図表5）、都銀等が2.0兆円増、地銀が0.1兆円減となり、都銀等ではリーマン・ショック後の2008年末に次ぐ増加額を記録。一方、預金等の前月差（図表6）も都銀等・地銀とも各4兆円台と高水準であったため、全体として貸出増加は預金流入の範囲内となった。



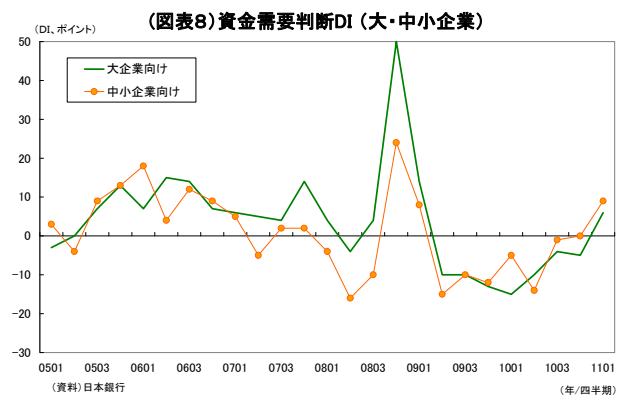
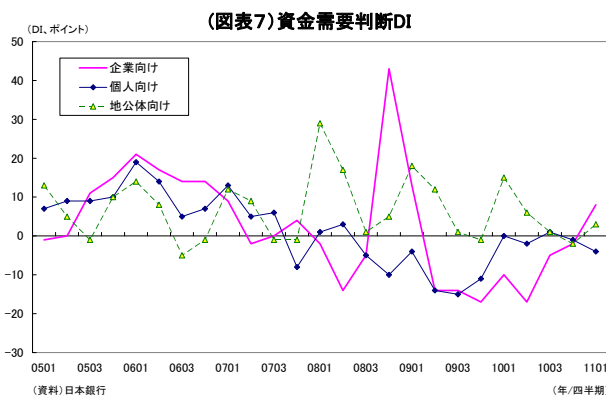


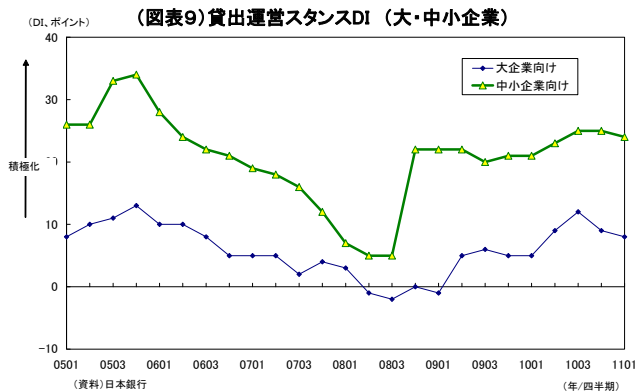
今後は復興に伴う資金需要の高まりや「被災地金融機関支援の資金供給オペ」など政策効果が期待される一方で、マインド低迷に伴う企業設備・住宅資金等の需要低迷も懸念され、この強弱要因のバランスが銀行貸出のトレンドを左右する構図が続くだろう。

2. 主要銀行貸出動向アンケート調査：企業の資金需要は2年ぶりの増加

主要銀行貸出動向アンケート調査によれば、2011年1-3月期の銀行から見た企業の資金需要増減を示す企業向け資金需要判断D.I.は前回から10ポイント改善の8となった。D.I.がプラス、すなわち資金需要増加となったのは2年ぶりとなる。企業規模別では、大企業が11ポイント上昇の6、中小企業が9ポイント上昇の9とそれぞれ大幅に上昇した。増加の理由は、企業規模を問わず「手許資金の積み増し」が最多となっており、大企業では「他の調達手段からのシフト」も多い。今回の回答期間は3月11日～4月12日と震災を織り込んでおり、震災を受けての運転資金確保の動きや社債発行環境悪化を背景とした銀行借入需要が生じているとみられる。

一方、企業の動きとは逆に、個人向け資金需要判断D.I.は▲4と前回から3ポイント低下した。住宅ローン需要が減少しており、震災に伴う住宅取得マインド低迷が背景にあるようだ(図表7,8)。





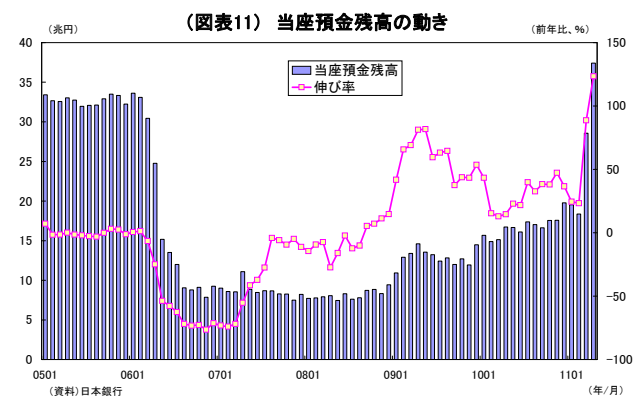
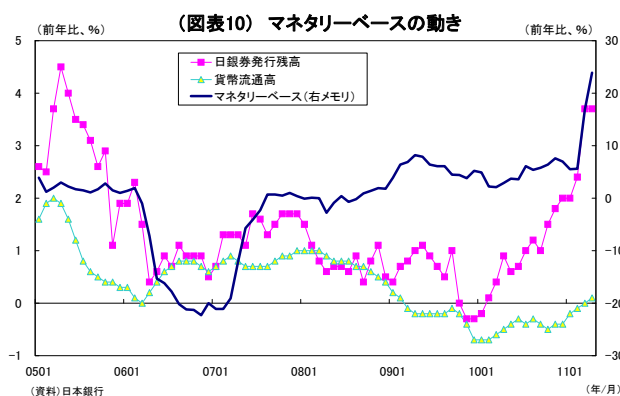
銀行の貸出運営スタンスの変化を示す貸出運営スタンスD.I.は、大企業が8、中小企業が24とそれぞれ前回から1ポイント低下したが、どちらもプラスを維持しており、引き続き貸出運営を積極化しているという結果になった。積極化した要因としては、従来同様、企業規模を問わず「成長分野への取り組み強化」を挙げる割合が高く、日銀の「成長基盤強化に向けた資金供給」が貸出運営積極化に影響を与えているようだ。ただし、上記の通り、今回の企業の資金需要増加は震災に伴うものとみられ、今のところ銀行サイドの運営積極化がどれだけ資金需要の掘り起こしに繋がっているのかは見えない(図表9)。

3. マネタリーベース： 資金供給量は過去最高を記録

日銀による資金供給量(日銀当座預金+市中のお金)を示すマネタリーベース(平残)は大きく続伸。4月の伸び率は前年同月比 23.9%と8年8ヶ月ぶり、残高は 121.9 兆円と過去最高水準を記録した。

震災を受けて市中・銀行では手元資金の確保の動きがみられ、日銀は金融市場の安定のために資金供給を大幅に上積み、4月に入ってもこの流れが続いた。このため日銀当座預金が 37.4 兆円と前月比で9兆円超増加、対前年では 123.4%増となった。また、日銀券発行残高も3月に続いて対前年 3.7%増と高い伸びを示した。震災の影響で預金の引き出しが増え、銀行も現金を多めに用意した影響が出ているようだ(図表 10,11)。

足元では、当座預金残高が 31 兆円台とやや減少しているが、日銀は引き続き潤沢な資金供給スタンスを維持していくとみられ、今後ともマネタリーベースは高い水準で推移していくと思われる。

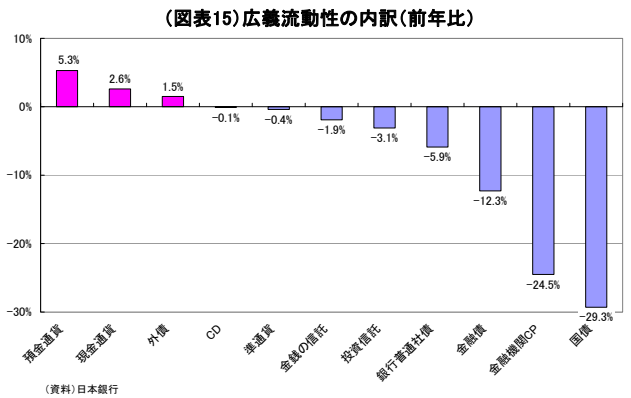
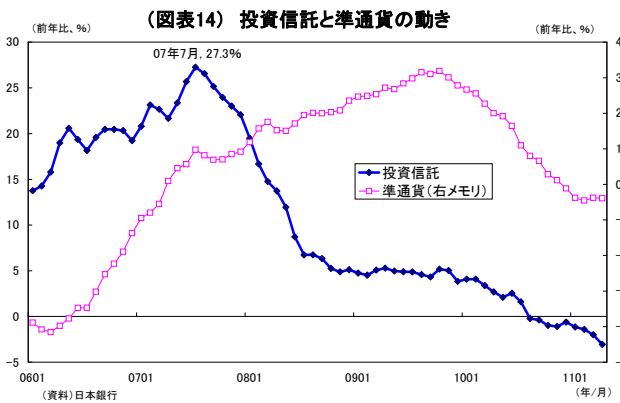
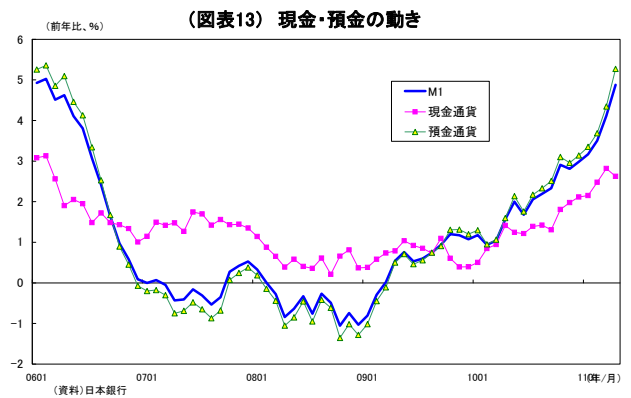
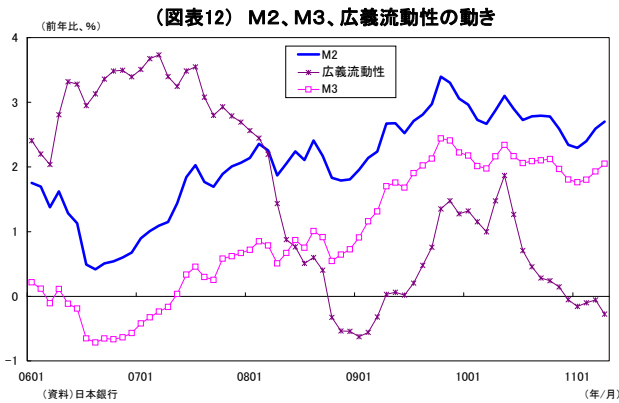


3. マネーストック：流動性資金への需要集中が続く

通貨供給量の代表的指標である4月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年同月比2.7%増（前月改定値は2.6%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.1%増（前月改定値は1.9%増）とそれぞれ増加。一方、M3に投信や外債などを含めた広義流動性は同▲0.3%（前月改定値は同▲0.1%）とマイナス幅がやや拡大している（図表12）。

広義流動性の内訳を見ると、預金通貨（当座・普通預金等）が前月（改定値4.3%）を上回る同5.3%と5年2ヶ月ぶりの高い伸びを示し、現金通貨も対前年2.6%と5年1ヶ月ぶりの伸びを示した前月（改定値2.8%）に次ぐ高水準を記録した。残高でも、預金通貨が統計開始以来の最高、現金通貨も需要が一年で最も高まる年末を除いた最高を更新した。

一方、準通貨（定期預金など）や投資信託、外債を除く債券等は前年比マイナスが続いており、震災に伴う「流動性の高い手元資金」への需要集中が続いている（図表13～15）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。